

先端技術キーワード解説

知っておきたい最新の動き

[電子書籍]

今月（2011年2月）、米国で書店チェーン第2位のボーダーズが倒産したというニュースが飛び込みました。この背景には、インターネットでの書籍販売や電子書籍が普及したことがあるとされています。この中で、特に、電子書籍は今後の成長が大きく見込まれています。今月は、この電子書籍を取り上げます。

電子書籍とは、紙にインクを用いて印刷した従来からある書籍ではなく、電子機器のディスプレイで読むことができる出版物です。電子書籍という用語はソフトウェアであるコンテンツを意味します。閲覧するためには、再生表示する電子ブックリーダーに、コンテンツをダウンロードします。

電子書籍は電子データであり、認識、読み込み、表示のためにフォーマットが定められています。現状では、複数のフォーマットが存在しています。これは、ここ数年で電子書籍市場が急成長したことから、各メーカーが独自の形式で開発をしてきたためです。

電子書籍の主なフォーマットには、以下があります。

(1) ePUB (Electronic Publication)

アメリカの電子書籍標準化団体である IDPF (International Digital Publishing Forum) が 2007 年 9 月に発表した電子書籍フォーマットです。XML をベースとした規格で公開されているため、iPad をはじめ、多くの端末で利用されています。

(2) PDF (Portable Document Format)

アドビシステムズが開発した電子文書フォーマットで、PC (パソコン) の世界ではよく知られているフォーマットです。

(3) AZW

Amazon.com が採用している Amazon Kindle 用の電子書籍フォーマットです。

(4) XMDF (Mobile Document Format)

シャープが開発した主に PDA、PC 向けの電子書籍フォーマットです。携帯電話端末を中心に特に日本国内で普及しています。

(5) その他

DAISY (Digital Accessible Information System)、ebi.jp、BookSurfing、TTZ、.book などがあります。

このように、電子書籍フォーマットが乱立していることから、ユーザーにとっては、端末とコンテンツの利用に制限があります。市場全体の成長を阻害しているとの見方もあります。

電子書籍を閲覧するための再生表示する端末は電子ブックリーダーとも呼ばれます。代表的な電子ブックリーダーとして、専用端末は、アマゾン・キンドル、Nook(Barnes & Noble Nook)、GALAPAGOS など、汎用端末は、携帯電話、タブレット PC などがあります。

ところで、電子書籍の市場の動向はどのようになっているのでしょうか。2010年度は「電子書籍元年」とも呼ばれ、今後の成長が見込まれていました。ところが、現状では、成長は間違いのないところでしよ



うが、その成長の速度は不透明です。

矢野経済研究所が、2010年11月に発表した「電子書籍市場に関する調査結果」によると、2009年度の国内市場規模は610億円、2010年度は670億円の見込みです。成長率として2010年度は2009年度より大きく減少するとのこと。ただし、出版業界の市場規模が2兆円を割り込み、マイナス成長となっていることを考えれば、相対的に電子書籍市場が盛り上がっているという見方ができます。

今後の成長速度は、コンテンツ数・分野の拡大、コンテンツの配信プラットフォームの充実などに左右されると考えられます。今後、数年はその状況を見守る必要があります。

(矢野経済研究所 <http://www.yano.co.jp/press/press.php/000707>などを参考)

(写真はソニーホームページ <http://www.sony.jp/reader/>より)

(注)

本解説は、執筆当時の状況に基づいて解説をしております。ご覧になる時には、状況が変わっている可能性がありますので、ご注意ください。

Copyright (C) Satoru Haga 2011, All right reserved.

技術・経営の戦略研究・トータルサポータ	工学博士 中小企業診断士 社会保険労務士(登録予定)
ティー・エム研究所	代表 芳賀 知
E-Mail: info_tm-lab@mbn.nifty.com	URL: http://tm-lab@a.la9.jp/